

第6回発達性ディスレクシア研究会プログラム

8月19日(土)

9:55 開会挨拶 宇野 彰(筑波大学)

10:00-10:35 ディスレクシアのアセスメントの考え方
—イアン・スマイズモデルの日本語への応用—
○藤堂栄子 非特定活動法人エッジ

10:35-11:10 時空配列処理能力とディスレクシアの音節構造
—英語ディスレクシア児の症例研究より—
○片田 房(早稲田大学理工学部) パトリシア・シュナイダーリージオガ
(カリフォルニア州立大学フラントン)

11:10-11:45 音声の物理特性を通して考える失読症の音声認知
○峯松信明(東京大学) 櫻庭京子(清瀬市障害者福祉センタ) 西村多寿子
(東京大学)

11:45-12:45 昼食

12:45-13:15 総会

13:25-14:00 発達性ディスレクシア児の漢字音読における心像性、親密度および学年配当の影響
○佐藤伊久生(筑波大学人間学類) 宇野彰(筑波大学人間総合科学研究所)
辰巳格(NPO 法人 LD・Dyslexia センター)

14:00-14:35 Cognitive-Linguistic Predictors of 5th Grade Reading Skills in Japanese
(小学5年生の読み能力を予測する認知言語的能力)
○Maya Shiho Kobayashi(Sophia University)、Charles W. Haynes(MGH
Institute of Health Professions)、Massachusetts Paul Macaruso(Community
College of Rhode Island and Haskins Laboratories Lincoln, Rhode Island and
New Haven, Connecticut)、Pamela E. Hook(MGH Institute of Health
Professions)

14:50-17:35 シンポジウム
『縦断的研究、横断的研究、コホート研究による発達性ディスレクシア研究の展開』
「中学生における英語の読み書きと認知機能」
タエコ ワイデル(英国ブルネル大学教授)
「学童期の読み能力の発達:横断・縦断データから」
高橋 登(大阪教育大学教授)
「漢字習得における視覚長期記憶の重要性」
小山 麻紀(英国オックスフォード大学生理学部)
「小学生におけるひらがな、カタカナ、漢字の読み書きと認知機能」
宇野 彰(筑波大学助教授)

18:00-懇親会

8月20日(日)

- 9:00-9:35 マインズ・アイと発達障害
○長沼睦雄(札幌療育センター)
- 9:35-10:10 発達性 Dyslexia 児・者における未知漢字や非言語的図形の作業記憶遂行中の大脳賦活部位に関する研究
○片野晶子(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 宇野彰(筑波大学人間総合科学研究科)
- 10:10-10:45 難聴児における軽度発達障害のリスクの検討
—GJB2 遺伝子変異難聴の高次脳機能評価から—
○川崎聰大(岡山大学) 福島邦博 長安吏江 片岡祐子 椿坂康之 西崎和則
- 11:00-11:35 視覚・運動の一致が読み書き困難者の運動系列自動化に及ぼす効果の検討
～読み書きの流暢性の観点から～
○薦森 英史(北海道大学病院小児科)
- 11:35-12:00 RAN 課題は就学前6歳児の読み障害をどこまで予測できるか
○金子真人(都立駒込病院)、宇野彰、春原則子、栗屋徳子、新家尚子
- 12:00-12:50 昼食
- 12:50-13:25 ひらがな単音読み、眼球運動と文章音読の読字特性
—ひらがな単音読み検査、DEM、Visagraph、音声解析による読字困難の検討—
○奥村智人¹、若宮英司²、栗本奈緒子¹、水田めぐみ¹、玉井浩^{1,3}
¹大阪医科大学LDセンター、²藍野大学医療保健学部、³大阪医科大学小児科
- 13:25-14:00 発達性読み書き障害児における大細胞(層)の関与
—FDTとVCTSを用いて—
○後藤多可志¹、宇野彰¹、春原則子²、金子真人³、栗屋徳子⁴
¹筑波大学大学院人間総合科学研究科、²東京都済生会中央病院リハビリテーション科、
³東京都立駒込病院リハビリテーション科、⁴杏林大学医学部付属病院リハビリテーション科
- 14:00-14:35 漢字書字に困難を示した児童における方法別の訓練効果
○児山昭江(旭川荘 療育センター 療育園)
- 14:50-15:50 招待講演
山本 淳一(慶應大学教授)
「単一事例研究計画法:あなたにもできるエビデンスに基づく
介入効果研究」
- 15:50 閉会の挨拶